男女共同参画週間記念講演会

「女と男（ひと ひと）　ともに豊かに生きる ～字幕の中に人生～」

講師　戸田奈津子さん
（映画字幕翻訳者）

7月8日（土）、会場の大分市平和市民公園能楽堂にはたくさんの方が来場され、現在年間40本前後の字幕翻訳をこなす戸田さんの貴重なお話をお聴きしました。

《講演要旨》

私の青春時代は戦争中でした。東京はあたり一面焼野原で、まさしく文化も何もない時代でした。その中にあって私の唯一の楽しみは映画を観ることでした。このことがこの後私の人生を決定づけるものになろうとは考えてもいませんでした。中学の時に初めて英語に接して、興味を覚えて目覚めていきました。その後も私は映画を観続けながら青春時代を過ごしていました。興味は高まるばかりで、もっと映画の世界を知りたいという欲求が日に日に高まっていきました。私から映画を取り上げたら、何も残らないというくらい好きで好きでたまりませんでした。おかげさまで英語力が自然と身に付いていきました。まさしく「好きこそ物の上手なれ」という言葉通りです。こうなると興味はますます深まるばかりです。その時私は物事を成就させるのに決して近道はないということも感じました。自分をしっかりと見続けていくことで、自分の好きなものがきっとみつかるはずです。子供の頃を思い出してみて下さい。きっと自分の好きなことに夢中になった時期があったはずです。大人になっていくうちに自然と遠のいていますね。残念な事ですよね。しかし、同じ事を長く続けていくことは決して簡単ではありませんが、でも、いつしかその事が力となって身に付いていくものです。

ある時私は映画を観ていると、字幕が気になり始めたのです。どんな人がどういう作業を経て作られていくのだろうと。このことは私の心の中にずっと居続けたのです。大学の卒業を目前にして、仕事をするのであれば、「好きな事」をして生きていきたいと思うようになり、ある時映画会社を訪ねてみました。すると、そこはまさしく男の世界でした。字幕の仕事においても同じでした。女性の姿は見られませんでした。しかし、あきらめる気持ちにはなりませんでした。その後いろいろな事を経て十年が過ぎた頃から映画の字幕の世界にも私の他に女性の進出がみられるようになりました。今では八割が女性です。実力があれば女性も充分やっていける世界です。字幕の仕事は最初から最後まで一人の人間が携わります。それは、ニュアンスの違いをまねかないようにするためです。『地獄の黙示録』を初めとして、最近の作品では『ダ・ヴィンチ・コード』を手掛けました。字幕の仕事の大切さは、しっかりとストーリーは伝えつつも、いかに短く訳すかということです。一秒間に四文字から五文字が要求されます。もう一つは日本語を問われる仕事でもあります。沢山の日本語が必要とされます。いかにして、英語を日本語に近く訳すかということです。皆さんもこれから男と女が織りなす沢山の映画をご覧になって心豊かな人生を送っていただきたいと思います。私もこの仕事がある限りずっと続けていきたいと思います。

《来場者の感想》

・仕事に関する姿勢、熱意とプロ意識の大切さについて心に響いた。（30歳代女性）

・何でも好きになること、好奇心が旺盛なことが人生を楽しくし、価値観も広がるというアドバイスが参考になりました。（40歳代男性）

・自分が何をすべきか、したいのか判らないまま過ごしていたときにエネルギーに満ちた戸田先生の講演が聴けて本当に良かった。（20歳代女性）